

# 令和4年度 学校評価

## 【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

1. 豊かな人権感覚の育成を図る 2. 規範意識の定着を図る 3. 生徒の自治活動の推進を図る 4. 基礎・基本の学力の定着を図る  
5. 発展的な学力として、表現力の育成を図る 以上5項目を設定し、その達成に向けた学校全体での取り組み状況を報告します。

### 学校評価の観点

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る		4.0	3.5
取組	成果	課題と改善策	
○朝や放課後の学習、家庭学習を充実させ、基礎基本の定着と徹底に取り組む。 ○家庭学習の定着に向け、タブレットドリルなど課題の工夫と家庭との連携を図る。 ○コーディネーターを中心に、医療センターや専門家派遣と連携する。 ○「体力づくり」をテーマに、授業開始時の基礎トレや6分間走、マラソン大会など計画的に取り組む。 ○栄養教諭を中心に、授業や通信を通じて食育を推進する。 ○NIEの指定を受け、組織的に取り組む。	○生徒が自ら進んで学習に取り組む態度を育成することができた。 ○コロナ禍で、タブレットやドリルを活用し、家庭学習に取り組んだ。 ○支援が必要な生徒の状況や支援方法について情報共有し、指導方法の改善を図った。 ○継続した体力づくりや食育により、心身ともに成長が見られた。 ○どの教科においても、積極的にタブレット端末を活用した授業を行い、情報活用能力を総合的に伸ばすことができた。	○学力低位や家庭状況等により、継続した学習や学力の定着が難しい。タブレットを活用したドリル学習を活用していく。 ○ステップアップ調査を活用し、小中が連携して9年間を見通した計画的な指導を推進していく。 ○支援を要する生徒の支援計画と情報共有と指導法の改善を徹底する。 ○ICT機器を活用した環境を整備し、コミュニケーション能力、言語活動を充実していく。	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める		4.0	3.5
取組	成果	課題と改善策	
○小中が連携した共通の目標やポスターを校内に掲示する。 ○道徳的判断力や態度を養う。 ○教育相談委員会を毎週実施して情報を共有する。教育相談とアンケートを毎学期実施し、SSWやSCと組織的に対応する。 ○キャリアノートを活用し、9年間を見通した進路指導を行う。 ○学校行事や学級活動を通して人間関係作りを積極的に取り入れる。 ○外部の教育機関と連携し、不登校生の学校復帰を目指す。	○小中が連携して授業規律、挨拶など基本的な生活習慣を徹底することができた。 ○定期的、組織的に委員会等で情報交換し、いじめの早期発見、早期対応ができた。 ○計画的に進路指導を行うことで、将来の生き方への関心を深め、自分の能力・適性等の発見と開発に関心を持つようになった。 ○人間関係作りを意識した活動を多く取り入れることにより、学習しやすい環境を作ることができた。 ○3年生になって登校できる生徒が増えた。	○道徳教育をさらに深化させるため、指導や評価方法について共通理解を深める。 ○情報モラルに関して外部から講師を招聘し、継続的に指導する。 ○キャリアノートやあまっこステップアップ調査を活用し個に応じたキャリア教育や進路指導を推進する。 ○生徒会活動や学校行事をさらに活性化させ、ボランティア活動や校内の環境作りに取り組む。	

<b>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</b> (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.5	3.5
取組	成果	課題と改善策	
○校内研修を積極的に実施し、教職員の意識や資質向上を図る。 ○保護者、地域と連携した「あいさつ運動」や環境整備に取り組む。 ○学校通信やHP、オープンスクールにより、学校から積極的に保護者や地域に情報発信し、課題を共有した学校経営を行う。 ○図書ボランティアや学校園作りに地域人材を活用する。 ○コロナ禍における様々な見直しを生かし、積極的に業務改善に取り組む。	○落ち着いた環境で授業が行われ、学力が向上した。また、部活動でも優秀な成績を収めるようになった。 ○コロナ禍でも行事を実施し、多くの保護者が学校の活動に興味をもって参加してくれた。 ○地域の方が、ボランティアで学校園作りに参加し、県や市の優秀賞を受賞した。 ○業務改善により、生徒に関わる時間の確保と教職員の健康保持に努め、活気ある学校作りに取り組んだ。	○若手教員の指導力向上のため、OJT手法による研修を取り入れる。また、管理職による授業見学と面談を積極的に行う。 ○多数の保護者が学校行事や授業参観に出席してくれた。これを機に、家庭の協力と支援をお願いする。 ○読書時間が短いため、ボランティアの協力を得て、図書室の利用方や利用時間帯を工夫する。 ○業務改善や部活動の地域移行、コロナの影響により制限が多く、地域の催しや活動への参加が困難になっている。	

<b>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</b> (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.5	3.5
取組	成果	課題と改善策	
○生徒の登下校の安全を確保するため、関係機関や育友会、地域の方々と安全指導を行う。 ○学校や通学路の点検を学期毎に実施し、安全な教育環境の確保に努める。 ○自転車の安全教室を実施し、交通安全指導の徹底を図ると共にネットトラブルから身を守る情報モラル教育を実施した。 ○防災に対する正しい知識と技術を身に付け、状況に応じた的確に判断できるよう、防災訓練を行った。	○地域、保護者と協同して行うことで、多くの目で生徒の安全を見守ることができた。また、地域からの呼びかけで学校周辺に歩行者用グリーンゾーンを設置してもらった。 ○学校老朽化に伴う危険箇所を施設課が優先的に補修してくれた。 ○コロナ禍においても、講習をオンラインや時期を工夫して行うことで、生徒の意識を高めることができた。 ○避難方法を工夫するなど実践的な取り組みができた。	○コロナ禍で緊急時におけるAEDの使用実践ができなかった。 ○交通や情報モラル教室が実践でもいかにさせるよう徹底する。 ○防災教育や訓練は行っているが、危機意識や瞬時の判断力を身に付けるのが難しい。 ○自転車の交通安全やマナー教室を実施し、定着しつつあるが、大人のマナーが悪いケースも多い。 ○校舎の老朽化が進んでいるので、安全な生活環境を確保するため、日頃から施設・設備の点検及び補修を適切に行う。	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	3.5
取組	成果	課題と改善策	
<p>○教育・学習内容を充実させ、教員と生徒が共に学び続ける意欲や態度を育成する。</p> <p>○互いを尊重し、ともに生きる豊かな心と健やかな身体を育成する。</p> <p>○一人ひとりを大切にす生徒指導と進路指導を推進し自己実現の意識の高揚を図る。</p> <p>○地域に広報を積極的に行い、信頼される学校作りを目指し、地域全体で生徒の育成を推進する。</p> <p>○学校通信やHPを活用し、保護者や地域へ学校の活動を積極的に発信する。</p>	<p>○コロナの影響で、休校することが多かったが、タブレットドリルやロイノートを使って家庭学習を充実することができた。</p> <p>○教育相談や進路指導を充実させ、生徒の自主的な活動が多くみられるようになった。</p> <p>○コロナ禍で制限されることが多かったが、行事を工夫して意識的に実施することで、保護者に関われた学校作りができた。</p>	<p>○研究授業や授業改善アドバイザー、外部講師、指導主事を活用することにより、教員の指導力向上と授業改善を図っていく。</p> <p>○学校目標や課題を明確化することにより、学校が組織として改善に取り組む。</p> <p>○市教委と連携して業務改善を推進し、教職員の意識改革と生徒に関わる時間を確保する。</p> <p>○地域や外部の人材を生かした生徒指導や安全・防災教育、進路指導を計画的に行う。</p>	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3.5
取組	成果	課題と改善策	
<p>○アクティブラーニングの視点を授業に取り入れ、自分の考えをしっかりと相手に伝える力と相手の考えをきちんと聞き取る力を育てる。</p> <p>○特別活動を充実させ、NIEなどを活用して発表の機会を多く設け、「表現力」、「言語力」の育成を図る。</p> <p>○研究授業や協議の実施、授業改善アドバイザーや指導主事を活用し、若手教員の指導力向上を図る。</p> <p>○タブレット端末を使った調べ学習やドリルを充実する。</p> <p>○小学校の授業スタイルを継続し、効果的な授業を実施する。</p>	<p>○コロナ禍で限られた時間ではあるが、「表現力」育成に向け、グループで討議や発表する機会を増した。</p> <p>○NIEの取り組みなど、発表の様子を新聞記事でも取り上げられるようになった。</p> <p>○基礎学力定着や学級環境づくりなどの取り組みが、ステップアップ調査の結果に現れるようになった。</p> <p>○学級活動や行事を充実させることにより、自ら学習に取り組む、仲間と共に課題に取り組むことができるようになった。</p>	<p>○読書、家庭学習の時間に伸びが見られていないので、図書館の積極的な活用やNIE活動を発展させていく。</p> <p>○学力低位層の引き上げができていないので、課題やテストの見直しをていねいに行う。</p> <p>○タブレット端末を使って、保護者と協力・連携した家庭学習の取り組みを推進する。</p> <p>○小中が連携してステップアップ調査等の分析を行い、課題を共有し、9年間を見通した計画的な進路指導とキャリア教育に取り組む。</p>	